

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	渋谷区障害者福祉センター代々木の杜ピア・キッズ		
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日		令和7年12月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和7年9月1日		令和7年12月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年9月1日		令和7年12月26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年9月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	サービス提供時間の長さ	生活の流れに沿って支援(登園時から午睡頃まで)にあたるため、1日1園の対応を行っている。 支援終了後のFBについても訪問先のニーズに応じた時間配分で調整を行っている。	現在の支援体制(支援、FBの時間確保等)の質を維持できる範囲の契約件数に調整。
2	保護者支援	月1回、報告書を基に対面での面談を実施。十分に相談できる時間を設け、支援状況だけでなく、家庭状況や保護者の心情等、幅広くサポートを行っている。	園を交えた三者面談等を通じて、子どもを中心とした連携を深め、支援環境の充実を図る。緊急性の高いケースに関しては、関係者会議を開催し、早期課題解決を図る。
3	訪問先との連携	それぞれの園環境や特色を考慮し、持続可能な範囲で支援体制を構築。先生方が悩みを吐き出せるよう、オフィシャルな形に縛られないコミュニケーションを意識的に行っている。	持続可能な支援の継続に向けて、児童発達支援(グループ担当職員)や相談支援との連携を深め、切れぬ支援体制を構築していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	契約件数の減少	児童発達支援の利用児数減少に伴い、契約件数が現状傾向にある。	契約件数は減少したが、1ケースあたりの訪問頻度を増やし、支援の質を維持。また、支援に繋がっていない児童も対象に加え、関係機関との連携を強化することで、新たな受け皿として機能し、契約件数の増加に繋げていく。
2	サービス利用の過多による支援方針の統一性	1ケースあたりのサービス利用頻度が高く、それぞれの立場から助言を受けている状況から保育現場に混乱が生まれるケースが見受けられた。	相談支援事業と連携を図り、申請時に利用状況や園内の支援体制を把握する。また、児童の不利益とならないようケース会議の定期開催により、支援の足並みを揃えていく。
3	支援対象の制限	作業療法士(OT)、理学療法士(PT)の配置はなく、肢体不自由児や医療的ケアが必要な児童については、契約対象に含まれていない状況。	他の保育所等訪問支援事業所との定例会等を通じて、連携を図り、地域の中で受け皿を広げていく。また、他業種連携を強化し、さまざまなニーズに対応できるよう環境整備する。